

学校だより



北友

10月号

富士宮市立北山中学校

令和5年10月4日(水)

1年47名 2年47名 3年51名

全校生徒数 145名

【学校教育目標】夢に向かって 自ら学び 共に高め合う生徒

想像力を働かせて ~10月の全校集会より~

校長

9月29日は「中秋の名月」でした。月を見た人はいますか？(約2/3の生徒が挙手)。ここ3年間は中秋の名月と満月が重なっていました。この二つの違いは、日本人として知っておきたい知識の一つですね。是非、調べてみてください。次に中秋の名月と満月が重なるのは7年後です。1年生の皆さんはちょうど20歳になっています。2、3年生の皆さんもそれぞれ、21歳、22歳…。どんな自分を思い描いていますか。

さて、気温も徐々に下がり、青空や星空が高く感じる季節となり、月も一段と輝きを増しています。はるか昔の人々は、神秘的に輝く月や星々を眺めながら、感謝や祈り、願いや教訓を神話やおとぎ話に込め、それらは、現代に至るまで語り継がれてきました。月の模様については、世界の国々や地域で色々な形に例えられ、長い間、動物などが住んでいると信じられてきました。スライド①の影は、私たち日本人には馴染み深いと思います。さて、このウサギは何をしていますか？ウサギの横に見える四角の影は何でしょう…。日本ではこの白でお餅をついていると伝わっていますが、中国では不老不死の薬の材料を手杵で打って、粉にしていると伝えられています。



月に浮かぶ模様

①

②

③

④

その他にも、南ヨーロッパ地方では②のカニがイメージされています。北ヨーロッパ地方では、③の読書をするおばあさんが、また、南米の国々では④のワニをイメージするなど、様々な形として伝承・表現されているようです。

しかし、なぜ私たち人間は、未知のものや、神秘的なものを別の形に例えてきたのでしょうか。一説によると私たち人間は、新しい形や線、地形、顔など、視覚に与えられた内容を処理する脳の働きによって、何に注意を向けるべきかを無意識のうちに判断するからだそうです。人間の脳には、新しい刺激要因を既存の情報と照らし合わせて認識する習性があり、何かの模様にも人の顔や意味のある形を見出すというのは、そのような働きによるものとして科学的には考えられています。一方で日本の竹取物語のような文学から、そのような物語が生まれた歴史的背景を知ったり、登場する人物の心情に思いを巡らせたりして、月の世界の魅力にふれるのも楽しいことです。皆さんは、中学生ですので、人間の営みを科学的な根拠をもって考えたり、分析したりする視点も大切にしながら、一方で、国や地域の文化、文学、地理的、宗教的な背景に関連付けながら、語り継がれてきた物語や言い伝えについて学ぶことも大切にしてほしいと思います。

現代を生き抜く私たちは、スマートフォンやゲーム、テレビ、パソコンなど科学技術の恩恵を受けながら生活を営んでいます。古代の人々のように月の模様や星座の物語、草や花、川、土、風、雲の形に想像力を働かせて鑑賞したり、文学や絵画などに表現し、神秘の世界をのんびりと味わう時間も大切にしたいですね。

参考資料 <https://lifewiththemoon.com/tsuki-no-moyou/>